

「でじラボ 伊方町」セミナー講演

今のままで
大丈夫？

災害対策と事業継続について ～基本的な考え方、大切なこと～

2024年 **6**月**7**日(金) 13:30

NEC ネットズエスアイ株式会社

明日のコミュニケーションをデザインする

NEC ネットズエスアイ

本目お話すること

1

はじめに・NECネッツエスアイについて

2

災害対策・事業継続における基本的な考え方

3

能登半島地震による教訓

4

情報伝達コミュニケーション手段のご紹介

5

みんなに配慮したコミュニケーション



1

はじめに・NECネッツエスアイについて

2

災害対策・事業継続における基本的な考え方

3

能登半島地震による教訓

4

情報伝達コミュニケーション手段のご紹介

5

みんなに配慮したコミュニケーション

会社概要

NEC ネットワークスアイ株式会社

NEC Networks & System Integration Corporation

(銘柄名称: NESIC、東証プライム市場)

設立 : 1953年12月1日設立
代表者 : 牛島 祐之
資本金 : 131億22百万円 (2023年4月1日現在)
売上高 : 3,208億円 (2023年3月期: 連結)
従業員数 : 7,825名 (2023年3月31日現在: 連結)
国内拠点 : 51拠点 サービスセンター 16
サービス拠点 : サービスステーション 約400



芝浦新本社ビルへの移転 (2023)

INNOVATION BASE
Beyond Borders

目的別オフィス・分散ワークを開始 (2020)



新技術の実証検証、人材育成拠点
テクニカルベース(KTC)開設



Empowered Office Centerを
開設 (2007)

2020年代～
コミュニケーションサービス
・オーケストレーター

2010年代～ ソリューションプロバイダー

2005年～ NEC ネットワークスアイ株式会社

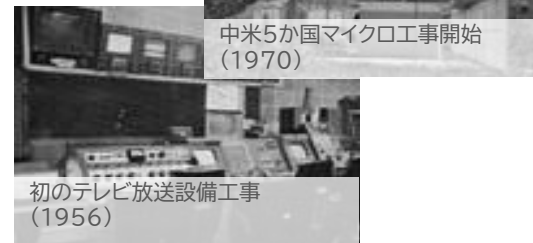
1990年代～ システムインテグレーター

1980年～ 日本電気システム建設株式会社

1960年代～ 海外インフラ構築

1953年(創業)～ 日本電気工事株式会社

通信建設



初のテレビ放送設備工事 (1956)

中米5か国マイクロ工事開始 (1970)

明日のコミュニケーションをデザインする

当社の取り組み ～ ESG・「持続可能な」「維持できる」サステナブル～

■ NECネットワークスアイが目指すESG経営とは

環境 Environment



カーボンニュートラル実現に向けて
自社実践し蓄積したノウハウを展開
社会のCN化に貢献

社会 Social



地域社会・自治体と企業との
新たな関係性のモデル構築

ガバナンス Governance



情報のリアルタイム見える化や
経営のスピード向上を通じ、
企業としてのレジリエンス強化

自社のESG経営を深化させるだけでなく **事業へと繋ぎ社会貢献へ**

陸上養殖事業の取り組み ※エシカル=人や社会、地域、環境などに配慮していること

最新の陸上養殖技術をベースにカメラ・センサーやAIといったデジタル技術を活用することで、おいしく、安心安全、エシカルな、ジャパンサーモンの出荷を開始しました



NECネットエスアイグループ、陸上養殖サーモンを初出荷 ～銀座三越にて世界先行販売を開始～

2023年8月31日

NECネットエスアイ株式会社
ネットフォレスト陸上養殖株式会社
NESIC陸上養殖株式会社

企業情報 >

NECネットエスアイについて >

採用情報 >

調達活動 >

プレスリリース >

2023年 >

2022年 >

2021年 >

2020年 >

2019年 >

2018年 >

NECネットエスアイ株式会社のグループ会社であるネットフォレスト陸上養殖株式会社(以下 ネットフォレスト陸上養殖)は、NESIC陸上養殖株式会社(以下 NESIC陸上養殖)の循環式陸上養殖場「富士・桂川ファクトリー」で育成したサーモンの販売をスタートしました。初出荷の一部は大都魚類株式会社(以下 大都魚類)を通じた卸売を行い、銀座三越で世界先行販売されます。

世界的に魚介類の需要が高まる中、年間を通して水産資源を安定的に供給できる陸上養殖への注目は年々高まっています。ネットフォレスト陸上養殖は、林養魚場(注1)の養殖/ノウハウとAIなどを活用したデジタル技術を組み合わせ、サーモンの陸上養殖事業の立ち上げに必要なライン構築から販路開拓までを含めた一連の支援を行っています。

今回販売を開始するサーモンは、それらのノウハウと技術を組み合わせて当社グループが先行的に実践しているNESIC陸上養殖の循環式陸上養殖場「富士・桂川ファクトリー」で育成したものです。ネットフォレスト陸上養殖は本サーモンを、美味しく、安心・安全、そしてエシカル(注2)な「JAPAN SALMON」としてブランド化し、提供していきます。

美味しく、安心・安全、そしてエシカル。
JAPAN SALMON

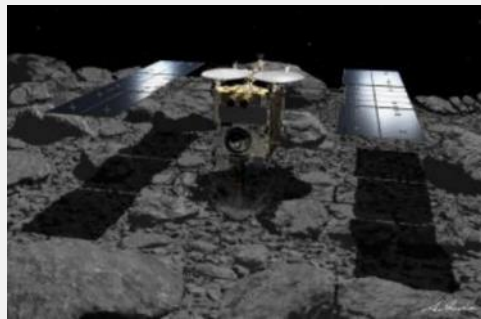


宇宙・南極の取り組み

宇宙・南極・海洋・海外など幅広い領域で活躍しています

「はやぶさ」運用支援

小惑星探査機をはじめとするさまざまな人工衛星や探査機との通信や運用管制を支援

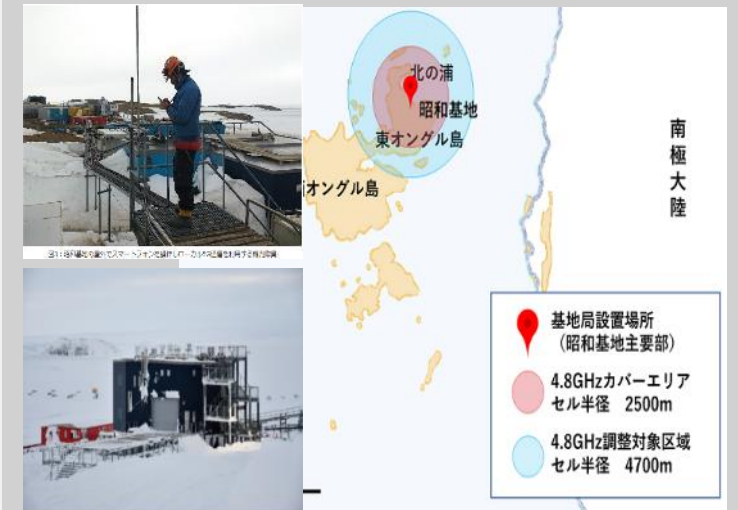


南極観測隊

衛星通信システムの運用・管制



南極域で初！
昭和基地でローカル5G実証実験を実施



ローカル5G検証製品
日本電気、NECマグナスコミュニケーションズ、シャープ、日本アンテナ等

NEC ネットズエスアイは 「まちづくり」に関わる様々な事業をお手伝いします

デジタルは、すでに身近な存在

デジタルは様々な分野において、
まちが抱える社会課題を解決する技術として期待

河川等の監視



非接触・省人化



テレワーク環境



見守りサービス





1

はじめに・NEC ネットワークスアイについて

2

災害対策・事業継続における基本的な考え方

3

能登半島地震による教訓

4

情報伝達コミュニケーション手段のご紹介

5

みんなに配慮したコミュニケーション

いつ発生してもおかしくない、 予測不可能な事態の備えはできていますか？



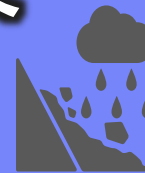
大地震

南海トラフ
首都直下



異常気象

超大型台風
集中豪雨



インフラ

システム障害
長期停電



大地震のような大規模災害や頻発する異常気象、それに伴うインフラ障害など、
事業継続を脅かす事象はいつ発生してもおかしくありません。

事業・生活を継続する上での**的確な判断**や**意思決定**には、

タイムリーかつ正確な情報収集が不可欠です。

緊急時における必要なリスク対策について、緊急時の対応フローとリスクを確認していきます。

平常時

初動対応・緊急対策

応急・復旧・復興対策

緊急時の事業継続(BCP対策)フロー

※中小企業BCP策定運用指針(中小企業庁) (<https://www.chusho.meti.go.jp/bcp/>)
をもとにNECネットエスアイ作成

平常時

- 対策策定/見直し/改定
- 対策についての教育
- 対策沿った訓練の実施
- 顧客・協力会社の取り組み確認



緊急事態

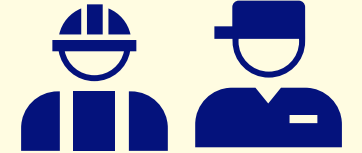
初動対応・緊急対策

- 二次被害の防止措置
- 従業員の参集
- 安否・被災状況の確認
- 顧客・協力会社への連絡
- 中核事業の
継続方針立案・体制確立



応急・復旧・復興対策

- 顧客・協力会社向け対策
- 従業員・事業資源対策
- 財務対策
- 地域貢献活動
- 災害復興対策



緊急事態発生直後の初動対応が遅れると、復旧にも時間がかかり

事業活動に大きな影響を与える可能性がある

初動対応・緊急対策におけるリスクとは

初動対応・緊急対策

- 二次被害の防止措置
- 従業員の参集
- 安否・被災状況の確認
- 顧客・協力会社への連絡
- 中核事業の
継続方針立案・体制確立

初動対応におけるリスク

- 現在地・各拠点・現場周辺などの
地震や風水害の被害に関する危険性が分からない
- 緊急時に**必要な従業員が出社できない**
- **停電・回線断が発生し、安否・被災状況が分からない**
- 顧客・協力会社との**連絡や情報共有ができない**

✓ 情報収集・見える化 ✓ 情報共有
✓ コミュニケーション ✓ インフラ に関わるリスク

初動対応におけるリスク対策

顕在リスク: ●情報収集・見える化 ●情報共有 ●コミュニケーション ●インフラ

対策

- ✓ 必要な**情報**を **あつめる・きめる・つたえる** 仕組み
- ✓ 途切れない**インフラ**基盤、**通信手段・電源の確保**

対策を考えるうえで大事なキーワード 3つ

- 日常(平時)も災害・緊急時(有事)も役に立つ フェーズフリー
- いつどこでも情報共有・意思決定ができる ロケーションフリー
- 切れづらく速やかに復旧する基盤 ハイレジリエンス

電気インフラ

電源関係： 再生可能エネルギー×BCP対策 、 コンセント×バッテリー

太陽光発電 × 蓄電池

平常時： 再生可能エネルギー活用によるエネルギーコスト削減効果

非常時： BCP対策、バックアップ電源として特定負荷を守る

※太陽光で発電した電力は負荷にて利用され、発電した電気量が負荷より多い場合は、蓄電される。



コンセント × バッテリー

平常時： 配線フリーなコンセントやタップとしてレイアウトフリー効果

非常時： BCP対策としてIT機器のバックアップ電源として活用



通信インフラ

通信関係： 衛星通信サービス×Wi-Fi 、 音声関係： 衛星携帯電話・自営網無線



衛星通信サービス × Wi-Fi

- ✓ 衛星通信サービス×Wi-Fi(アクセスポイント)でインターネット通信を冗長化

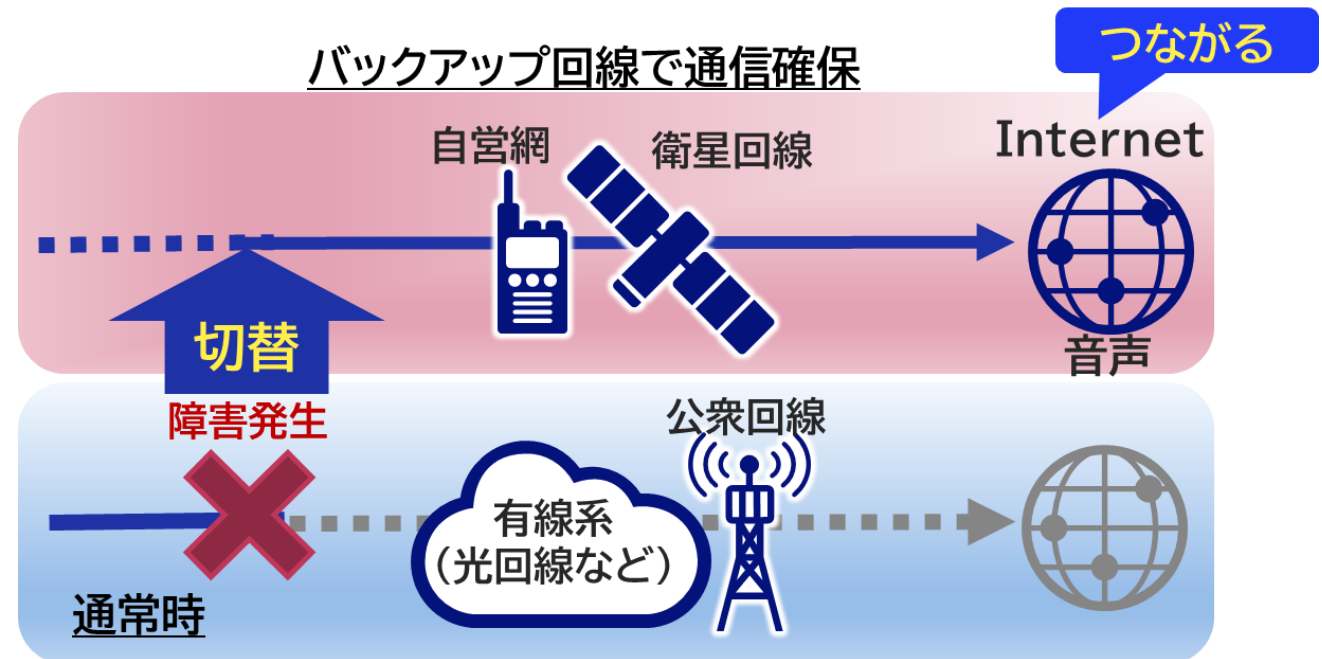
インターネット



衛星携帯電話・ 自営網無線

- ✓ 衛星携帯電話や自営網無線で音声コミュニケーションを冗長化

音声





1

はじめに・NECネッツエスアイについて

2

災害対策・事業継続における基本的な考え方

3


能登半島地震による教訓

4

情報伝達コミュニケーション手段のご紹介

5

みんなに配慮したコミュニケーション

An aerial photograph of a city skyline in the background, with a multi-lane highway in the foreground. The highway is flanked by dense palm trees and greenery. The sky is overcast with soft, diffused light. The text is overlaid on a semi-transparent white band across the middle of the image.

NEC ネットズ エスアイが考える
災害対策において大切なこと
～能登半島地震でわかった課題～



能登地域の復旧はいまだ進まず...
まだまだこれからです



石川県 志賀町、能登町のご紹介

志賀町

- ・面積 246.76km²
- ・総人口 16,969人 (2024年4月)

- ・石川県の中西部、能登地方の北西部に位置
- ・県内唯一の原発「北陸電力志賀原子力発電所」立地地域

【特長】

- ・一次産業: 農業、林業、水産業が盛んな場所
- ・志賀米こしひかり、能登牛、能登だいこん、登白ねぎ、能登金時、能登かぼちゃ、上棚すいか、上棚太秋柿、上棚赤土メロン等

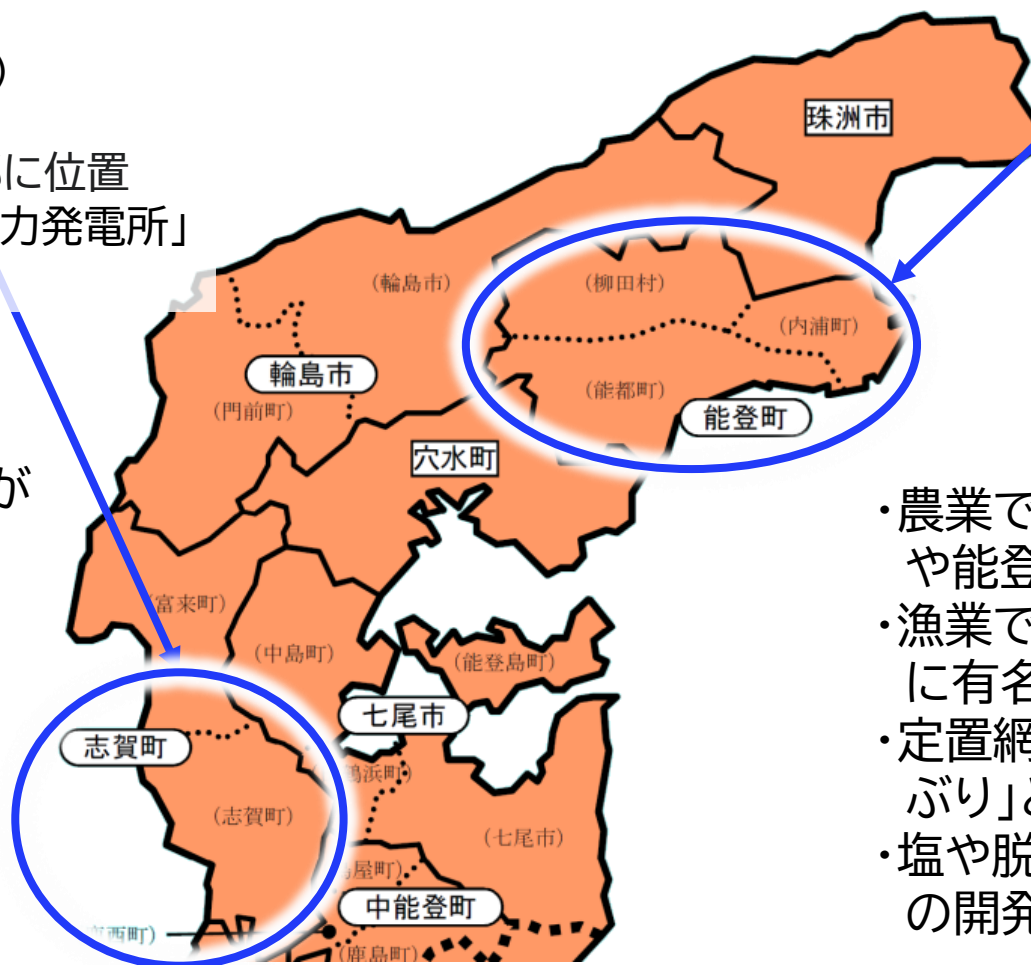
能登町

- ・面積 273.27km²
- ・総人口 13,891人 (2024年4月)

- ・平成17年3月1日、能都町、柳田村、内浦町が合併して誕生

【特長】

- ・農業では稲作をはじめとしてブルーベリーや能登牛が特産品
- ・漁業ではイカ釣漁業と定置網漁業が全国的に有名
- ・定置網で獲られたブリは「宇出津港のと寒ぶり」としてブランド化
- ・塩や脱塩水をはじめ、加工品など関連商品の開発が進んでいる



1. 能登半島地震における当社の活動内容
2. 災害対策における基本的な考え方
3. 災害対策において大切なこと

1. 能登半島地震における当社の活動内容
2. 災害対策における基本的な考え方
3. 災害対策において大切なこと

発災後(1~2週間)の活動 (1/2)

1/1(月) 16:10 **能登半島地震発生**

1/3(水) 能登町・志賀町より支援物資提供の依頼を受け、
当社の北陸支店の社員により支援活動開始

主に水・食料

1/4(木) 支援物資購入、仕分け、積荷を実施し、支援物資を搬送

北陸支店 支店長からの全社へのメッセージ



ご心配されているNESIC全社員の皆様
北陸支店 鶴見です。
能登半島地震の対応で少しかだけ落ち着きましたのでコメント致します。
(中略)
北陸支店全員元気に前を向いて復興に尽力することを宣言したいと思います！
ただ、私達だけでは限界もございます。オールNESICでご支援賜りたくご支援宜しくお願ひ致します。
最後に
今後どのような形で復興に向けて各市町が対応されていくか分かりませんが、人手不足や支援物資提供、義援金など
応援が必要となった際はご協力賜りたく宜しくお願ひします。
自然豊かな能登半島と人情味ある能登の人をもとの姿へ
どうか助けて下さい。よろしくお願ひします。

発災後(1~2週間)の活動 (2/2)

1/5(金) 年始の業務始業 現地の状況確認、総務部・他社内への協力依頼

1/9(火) 北陸支店(金沢市)に **“災害対策本部”** 設置

衣類(下着)、生活用品、モバイル電源 等

1/12(金) 2回目の物資調達・配送

フェーズにより必要な物資に変化が



【復旧対応】 能登町CATV (システム被害状況)

柳田地区

内浦地区

大平
能登庁舎

光連絡線

崎山センター



北電柱倒壊
道路隆起
この状態でも
CATV光は断線無し



土砂崩れ
伝送路が巻き込まれ被害

【地震被害】

- センタ設備の損壊
- 光連絡線の切断
- 光幹線の切断
- 光分配線の切断
- 引込線の切断

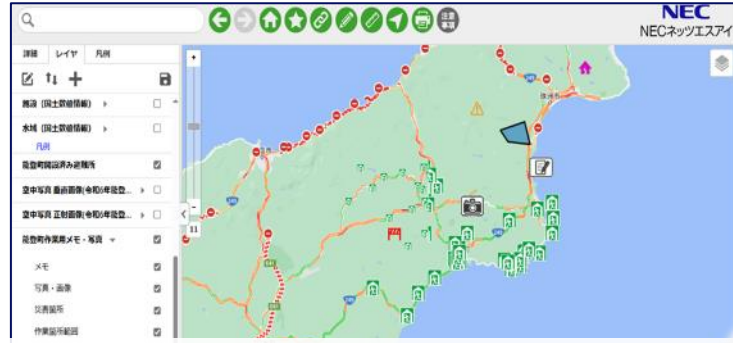
伝送路断線

能都地区

【支援対応】 ICTによるシステムの提供

能登町

iPad／地理情報コミュニケーションサービス／NeatFrame



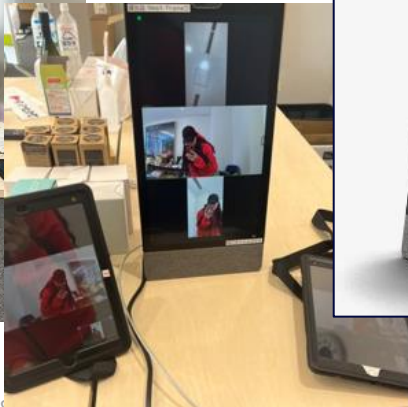
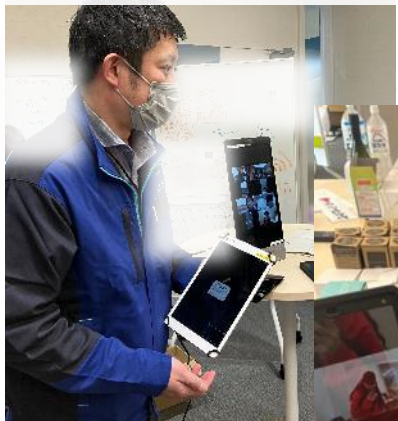
志賀町

マルチ映像表示システム(ビデオウォール)
地理情報コミュニケーションサービス

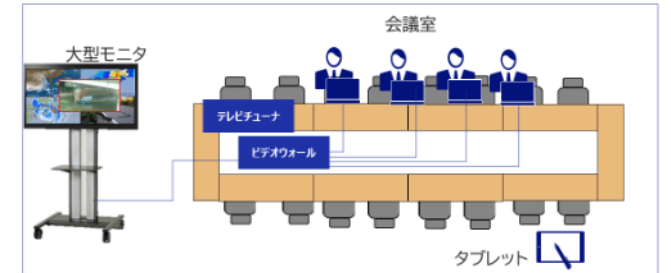


現場の情報共有をサポート

災害対策本部での活用



画面のレイアウトはタブレットで、直感的に操作可能
テレビとPC資料を同時表示、意思決定のサポート



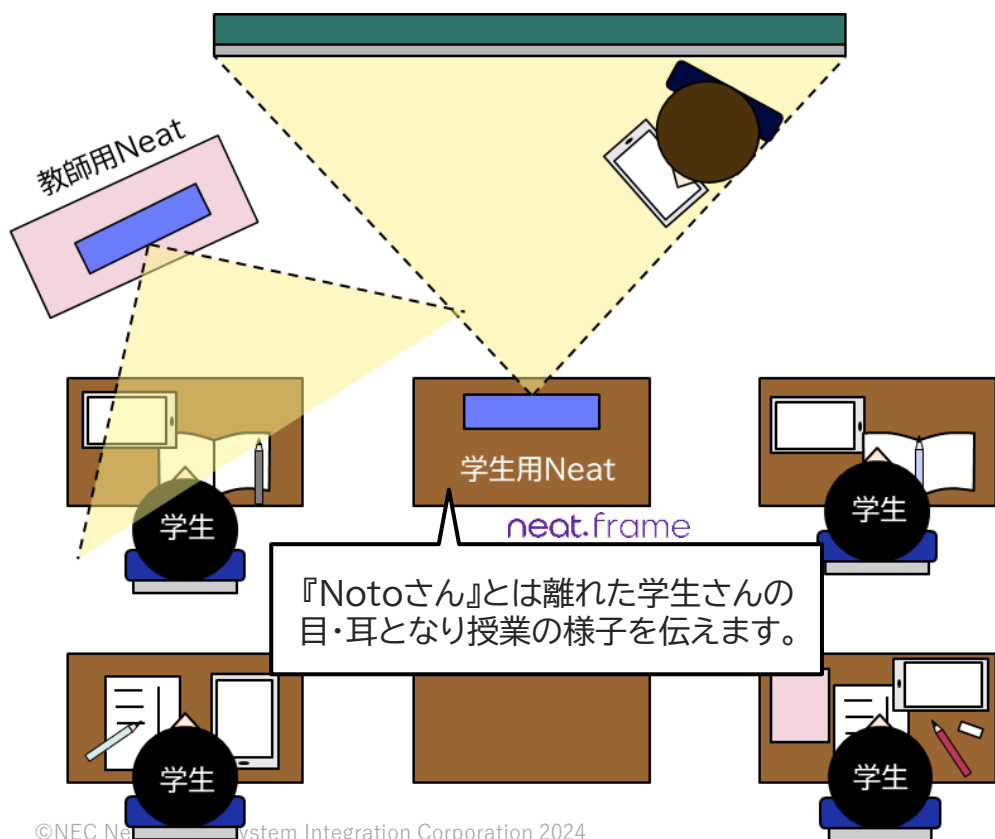
【支援対応】 遠隔授業の課題解決

～となりのNotoさん～

学校授業におけるリアル学生と遠隔学生の距離を縮める もう一人の学生



遠隔授業システム



利用想定シーン



リモート参加学生



教師

実際の授業での利用シーン



※Neatとは「きちんとした、巧妙な、適切な」という意味を持つ形容詞表現。

【支援対応】 現地とのコミュニケーション活性化

水曜のようこそ！！



いつもの関係・新たな繋がりと発見、人と人の輪が広がる

毎週水曜日17:30～能登町の災害支援本部とつないで、近況等語り合っています。
NPOの皆さんにも参加いただき、新たな輪が広がっています。

1. 能登半島地震における当社の活動内容
2. 災害対策における基本的な考え方
3. 災害対策において大切なこと

発災時は、人命最優先

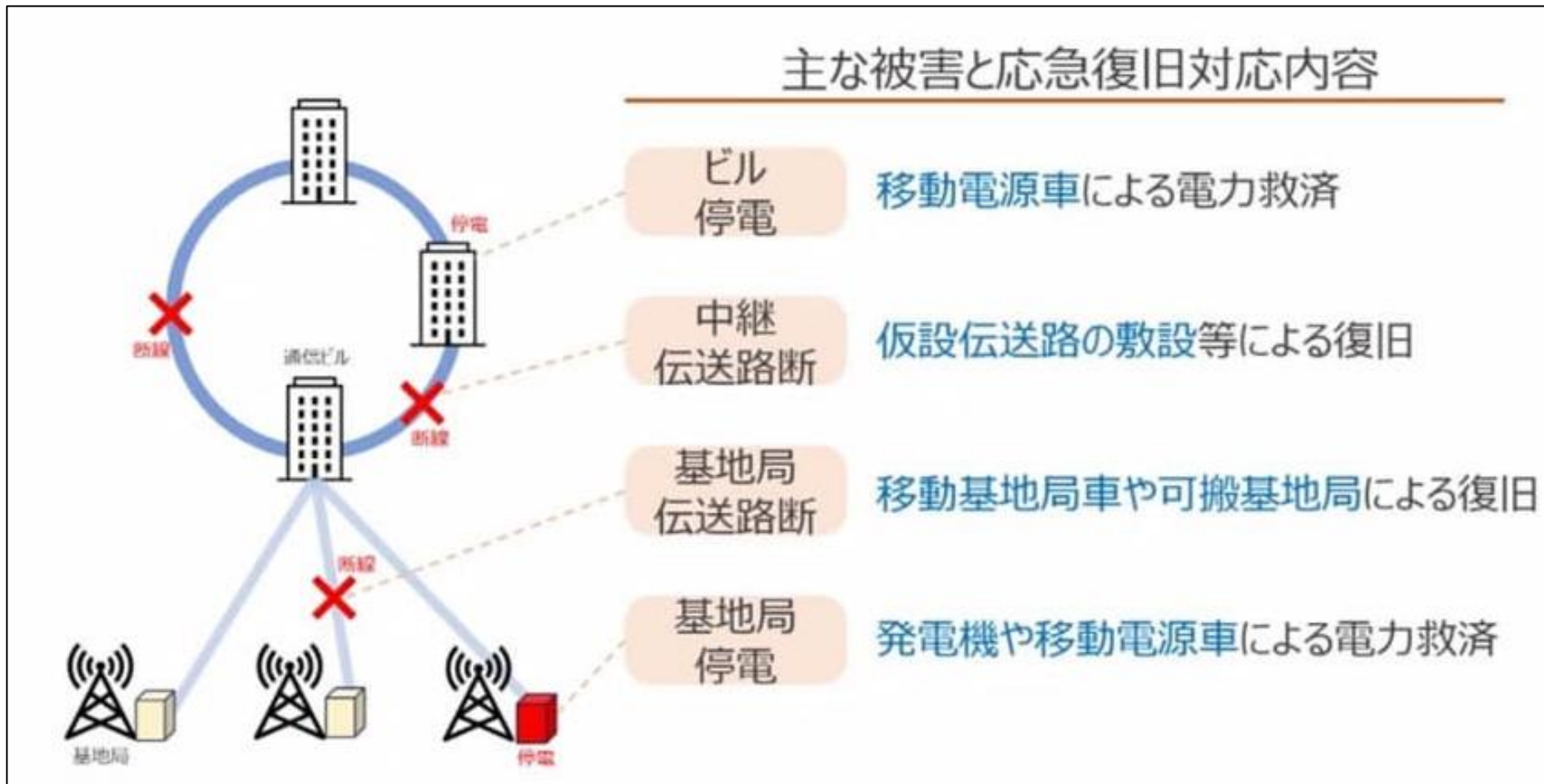
ただし、「電気」「通信」は
すぐ必要な重要なインフラ

デジタルを活用するためには

「電気」「通信」が必須

能登半島地震における「電気」と「通信」の状況

あらゆるところで停電が発生し、移動電源車により電力が供給された



出典：Impress Watch
<https://www.watch.impress.co.jp/docs/series/ishino/1562746.html>


能登半島地震における「電気」と「通信」の状況

通信キャリアが使えない為、有事の際は、衛星通信の活用も必要


復旧体制 25

移動基地局、Starlink、発電機などを利用し
1日最大約500名体制で順次エリア支障解消


復旧機材	被災地への配備台数
移動基地局 (車載型・可搬型)	84台 (Starlinkおよび静止衛星対応)
Starlinkアンテナ (バックホール回線に活用)	159台
ポータブル発電機	228台
船上基地局	1隻 (NTTドコモ共同)



車載型基地局



ポータブル発電機の給油作業の様子



Starlinkのバックホール回線活用による復旧イメージ



無線基地局
Starlink アンテナ
Starlink衛星
通信ケーブル断



出典 : Impress Watch

<https://www.watch.impress.co.jp/docs/series/ishino/1562746.html>

自治体の対応(時系列)

1. 緊急対応



- 情報伝達体制の確立
- 避難所の早期開設
- 被害評価と救助活動

2. 復旧対応



- 被害状況把握と復旧計画
- インフラの修復と再建
- 住宅支援と仮設住宅の整備

3. 復興対応



- 雇用機会の創出と産業再建
- 学校や公共施設の再建
- 住宅再建とコミュニティサポート

4. 恒久対応



- 災害有事で使うシステムや仕組みを平時で利用
= 平時で使っているシステム仕組みを有事に活用
- デジタルインフラとスマートシティ構築
- 地域社会の連携と強化

1. 能登半島地震における当社の活動内容
2. 災害対策における基本的な考え方
3. 災害対策において大切なこと

平時利用

シンプル

情報共有

平時利用

シンプル

情報共有

平時に利用していないシステムは、、、

有事には**絶対に使えない**

地理情報コミュニケーションサービスの 利用方法を説明



① オブジェクトの追加を選択

② 入力したい災害メモを選択

③ 写真を紐づけた位置を選択

④ 情報を入力して保存

自治体職員様



- 良いシステムだと思うけど、普段から利用していないから、..
- もっと早く使えていたら、..

平時利用

設備・物資の備え



設備に紐づいた点検結果の登録

備蓄品在庫の登録・更新・配分

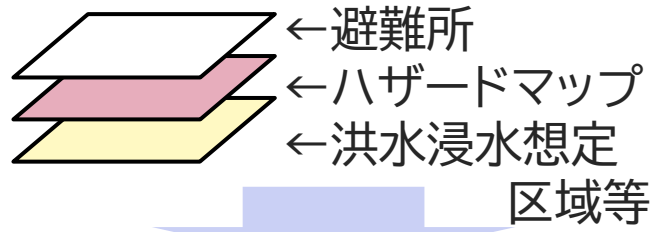
土地の利用状況情報収集



利用状況メモ

土地の写真

災害リスクの可視化



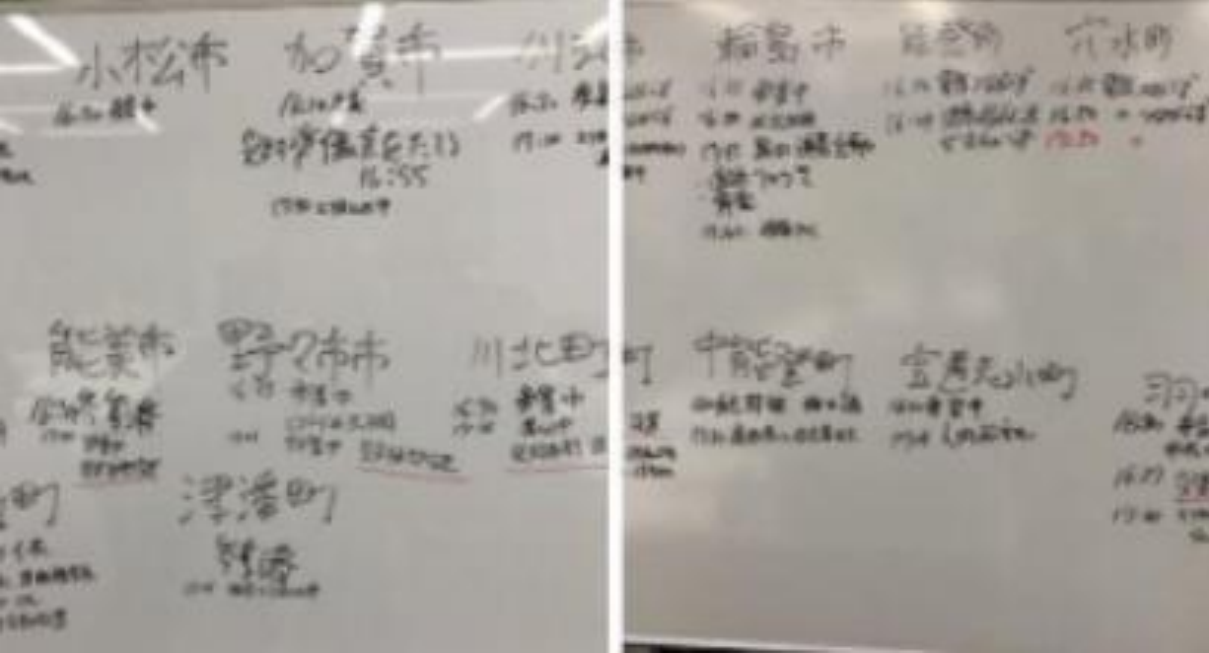
平時から使いにこなすことが重要

平時利用

シンプル

情報共有

発災後の石川県庁



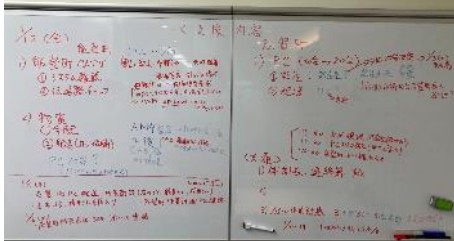
出典:石川県 馳知事 X

発災直後の様子



出典:日本赤十字社(岡山支部)

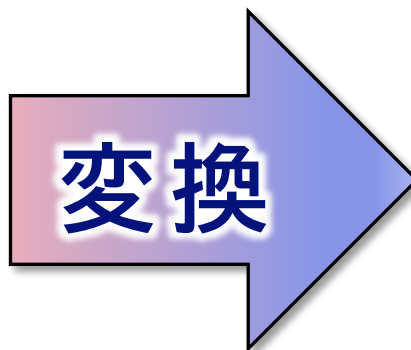
当社の災害対策本部



有事(災害)の際、アナログはまだ使われている

それは **使いやすい=シンプル** だから

アナログを使うことは悪くはない



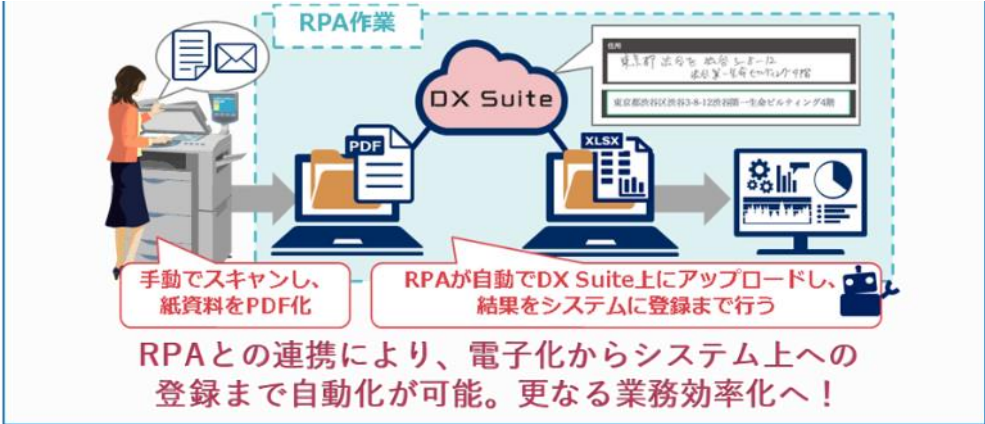
アナログをいかに

シンプルにデジタル変換

できるか

シンプル

手書き文章 ⇒ 電子化



複数行の文章も読み取り可能

手書き文字

データ化

書き損じや取り消し線を自動補正

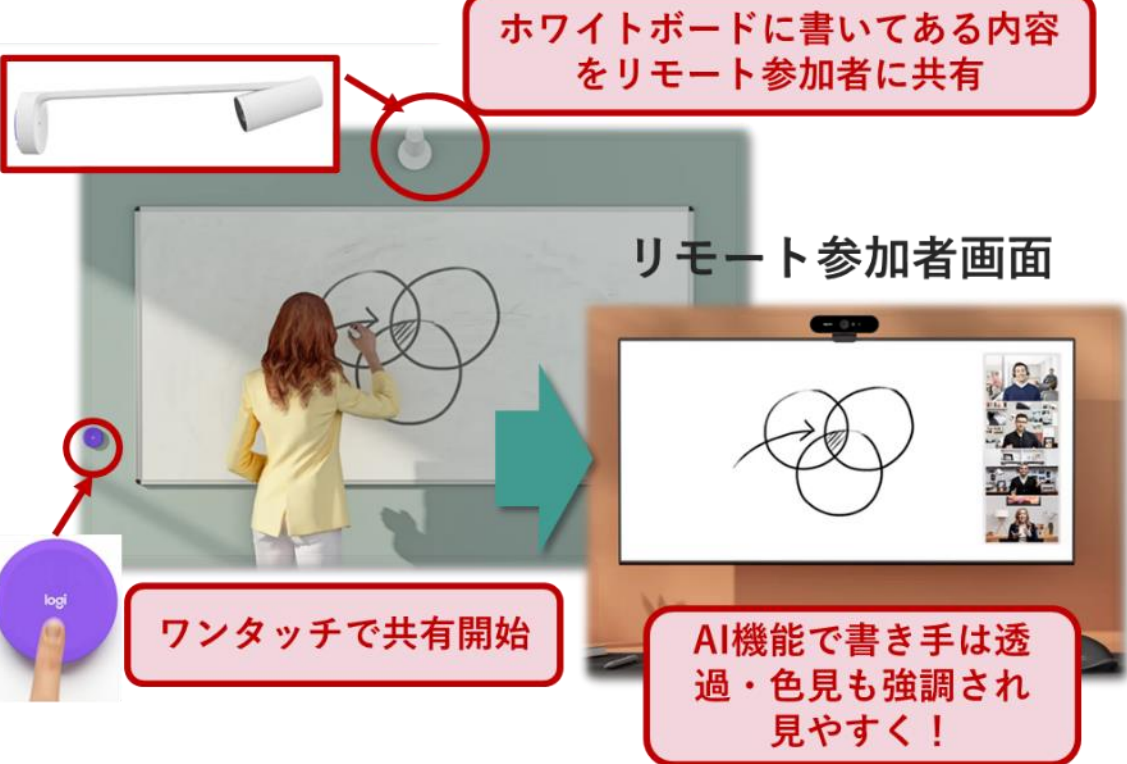
住所

千葉県浦安市舞浜1-1

手書き文字

データ化

ホワイトボード ⇒ デジタル

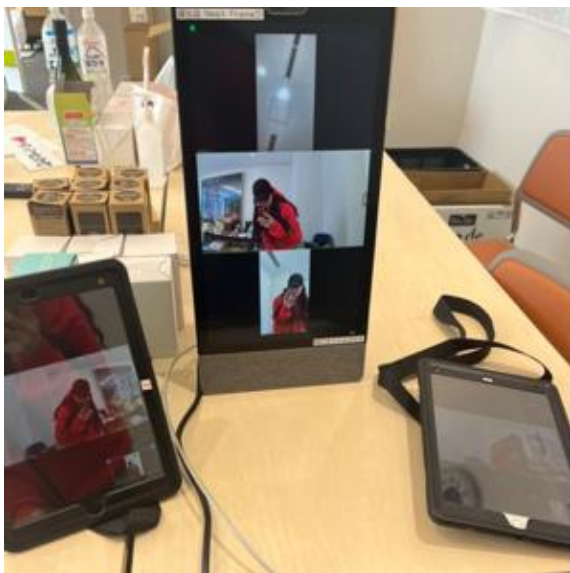


アナログ・デジタルに捉われずに シンプルな活用方法を

今回最も活用されたICTシステム

オールインワン型 遠隔会議システム

- ✓ ディスプレイ
- ✓ スピーカ
- ✓ カメラ
- ✓ マイク
- ✓ 会議システム



①電源プラグ接続

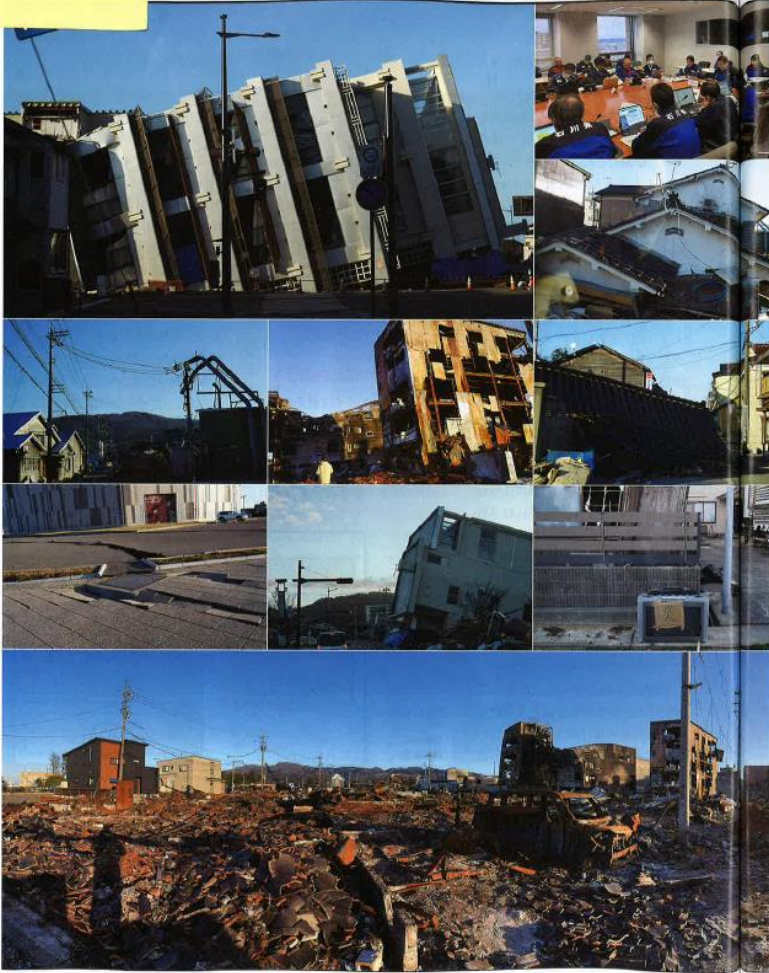
②開始ボタン ON

簡単 2ステップ
すぐにコミュニケーション開始

平時利用

シンプル

情報共有



能登半島地震 防災DXの理想と現実

石川県能登半島で最大震度7を観測した地震の発生から2カ月。人命を守るデータシステムを巡る官民の取り組みからは防災DX(デジタルトランスフォーメーション)の理想と現実の差が浮き彫りになった。既に防災情報システムを運用していたものの、甚大な被害のため想定外の事態が相次ぎ、被災した市町と、支援する県や国の関連機関などとの情報共有がうまく進まないといった課題に直面した。
(長倉 克雄)

「避難所の情報が合わない」。2024年1月3日朝、被災者救済に被災地に入った自衛隊員から避難所情報の報告を受けた石川県の西垣淳子副知事は、被災市町が入力するシステムの情報と自衛隊員の報告がずれていることに気付いた。物資を届けるなどの被災者支援のため、どこに何人が避難しているか把握が必要がある。だが、避難所の情報を正確に把握できないのだ。

石川県は2020年からNTTデータ関西の総合防災情報システム「EYEBOUSAI」を基にした「石川県総合防災情報システム」を運用していた。本来なら、指定避難所の開設状況や避難者の人数などは市町が把握し、

同システムに入力、避難所情報はここで一元管理できるはずだった。実際、2023年5月に能登地方で最大震度6強を観測した地震では、避難所情報を同システムで一元管理した。

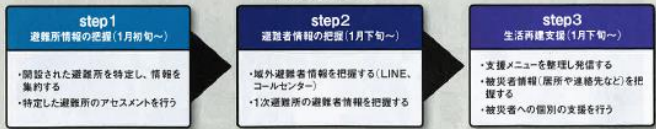
避難所状況の把握が難しい

ところが、能登半島地震では県が管理する道路のうち42路線の87カ所が通行止めになり、奥能登へのアクセスルートが一時遮断された。指定避難所以外の自主避難や孤立集落が多数発生した。市町職員も被災したため、避難所状況の確認が難しく、正確に把握できない上、システムに人力する余裕もなかった。災害発生から被災者が救助される

までの時間が72時間を超えると、生存率が大きく下がるとされる。この時期、自衛隊などは人命救助のため、自主避難や孤立集落を市町職員よりも早く発見。物資を届けるため、どこに何人避難しているかといった情報も収集していた。発見した避難所や孤立集落の情報を県の会議において口頭で報告し、情報共有した。

2024年1月4日、サイボウズの災害支援チームが県庁へ支援に入った。避難所情報の正確な把握が難しくなっている課題を西垣副知事が伝えたので、サイボウズのチームは、自衛隊が収集する情報をデータ化するために、クラウドサービスの「kintone(キントーン)」のアプリ

発災後から、状況に応じて3ステップの企画、推進を進めてきた ◎ 被災者支援の3ステップ



出所: 石川県への取材を基に口頭インタビュー作成

現実には

避難所・避難者の
正確な情報が把握できない

現場の情報は
日々刻々と更新される

自治体職員は
データ入力に余裕はない

出典:日経コンピュータ(2024.3.7)

集める 現場情報把握

関係機関情報

社内危機管理情報

災害現場状況



現場の**情報収集**を

「迅速に」「確実に」「誰もが」

「いつでも」「どこでも」

できることが最も重要

次の**「正確な」「素早い」**行動へとつながる

平時利用

シンプル

情報共有

社会インフラ(電気・通信)

社会インフラ(電気・通信)から
安全・安心なまちづくりを





1

はじめに・NECネッツエスアイについて

2

災害対策・事業継続における基本的な考え方

3

能登半島地震による教訓

4

情報伝達コミュニケーション手段のご紹介

5

みんなに配慮したコミュニケーション

これからの情報伝達手段のあり方！

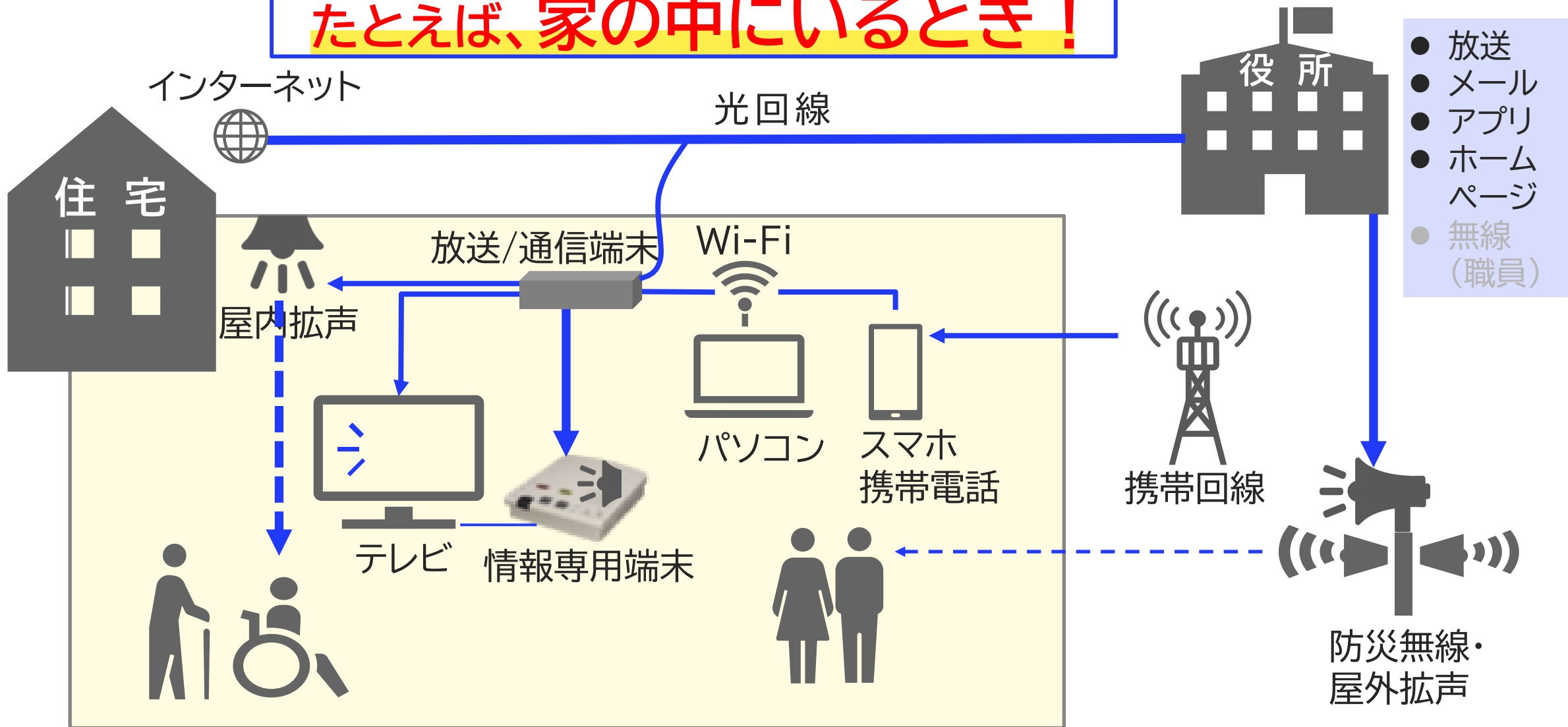
想定外の災害が発生する中、1つの情報伝達メディアでは、
住民みんなに情報を伝えきれない

複数のメディアに同時に情報配信
音声で！テレビで！スマホで！。。。。。

住民の生活シーンに関わらず何らかのメディアで情報入手

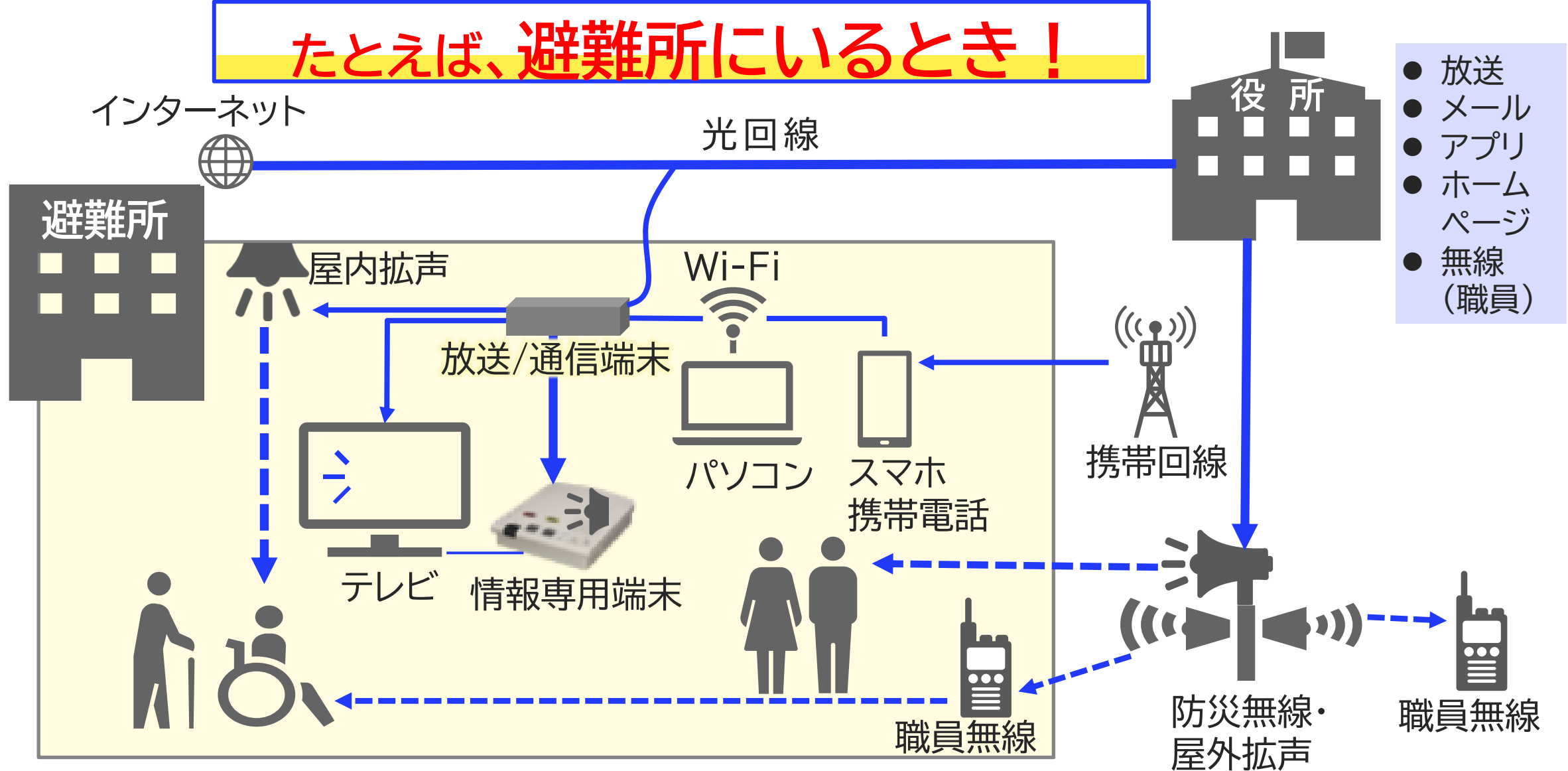
①「屋内にいる」ときの情報入手のイメージ

たとえば、家の中にいるとき！



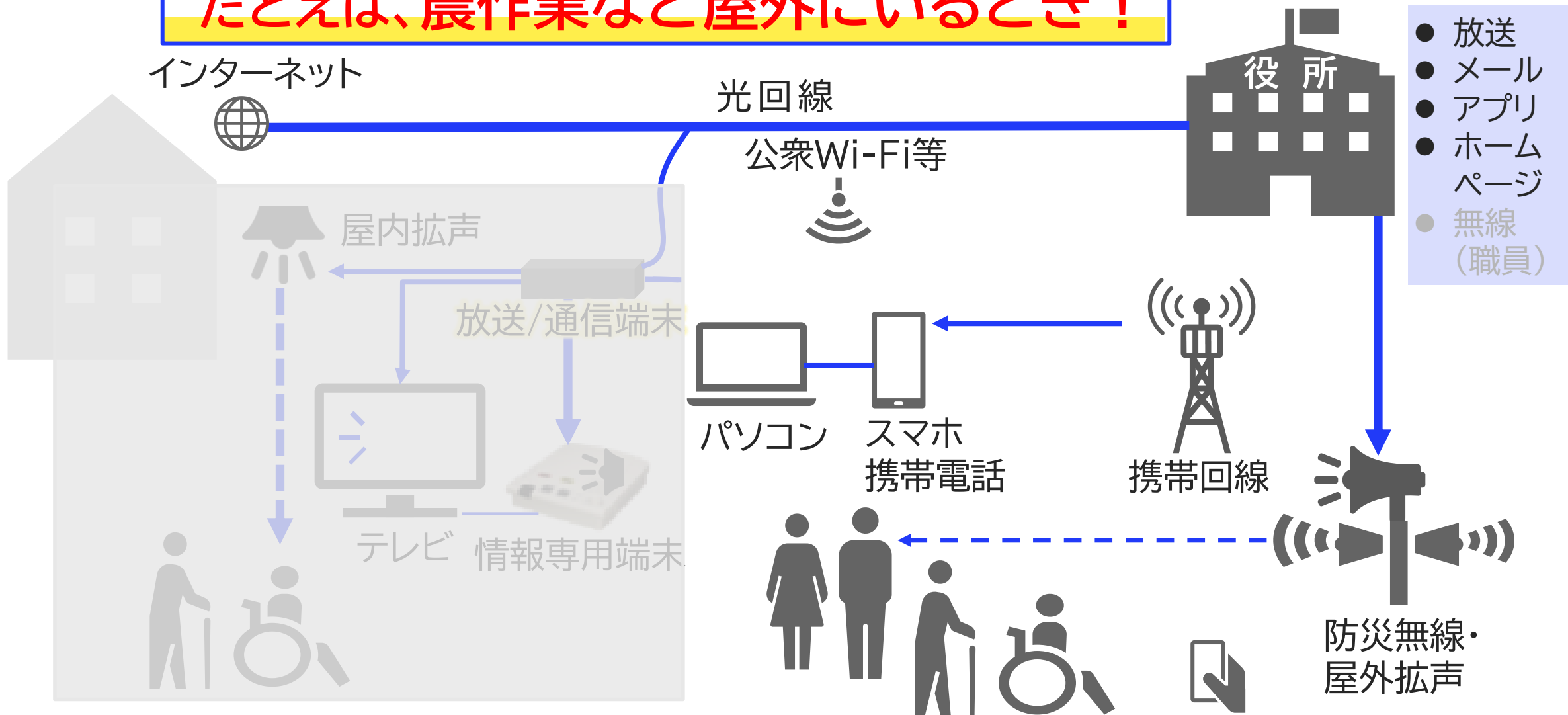
②「公共施設・避難所にいる」ときの情報入手のイメージ

たとえば、避難所にいるとき！



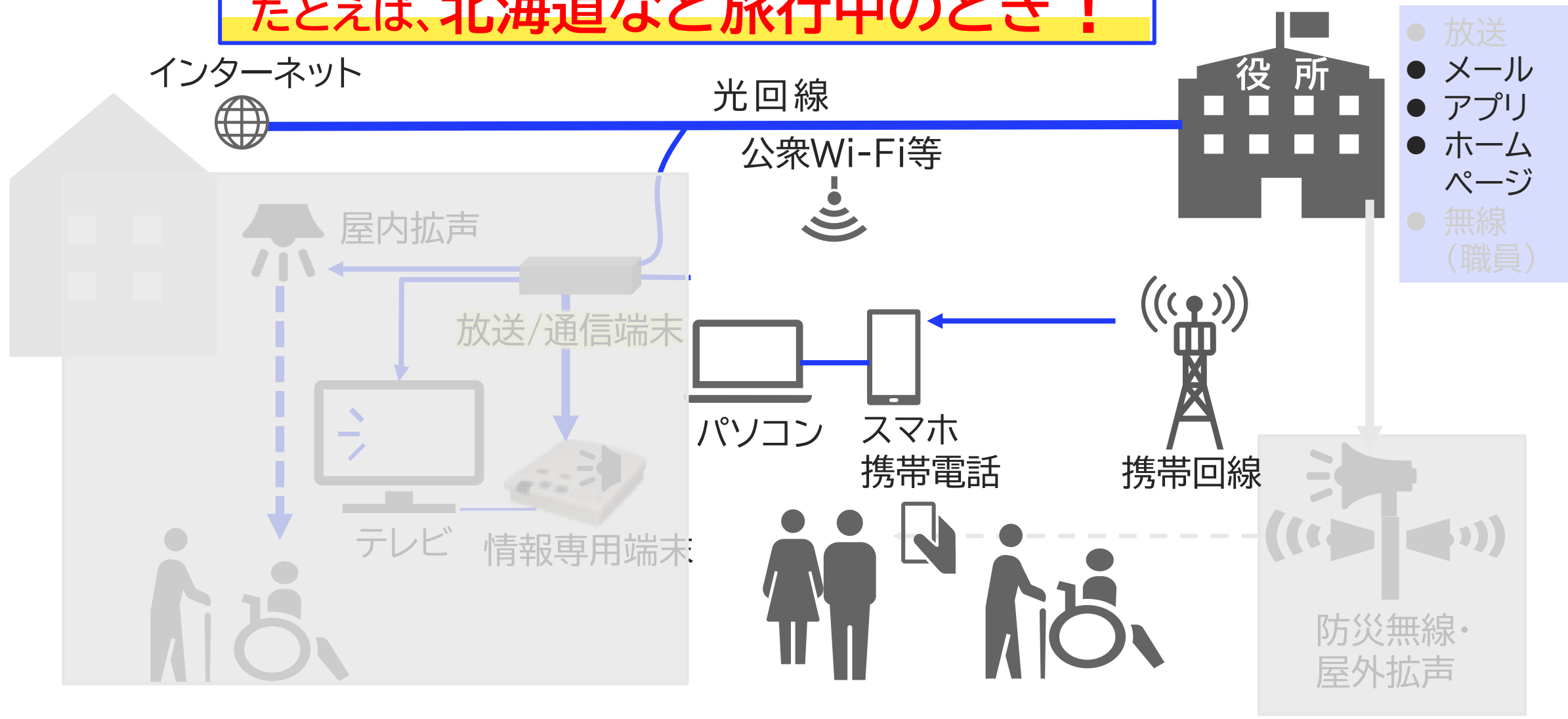
③「屋外にいる」ときの情報入手のイメージ

たとえば、農作業など屋外にいるとき！






④「まちの外」にいるときの情報入手のイメージ

たとえば、北海道など旅行中のとき！



情報入手のまとめ:情報伝達の方法

生活シーン		伝達方法		屋外拡声	パソコン (インターネット)	スマホ アプリ
		テレビ	情報専用 端末/ 屋内拡声			
①屋内	スマホ使わない ご高齢の方	○	○	△	△	△
	住民の方	○	○	△	○	○
②公共施設・避難所 		○	○	○	○	○
③屋外外出・作業中 		×	×	○	△	○
④まちの外(旅行等) 		△	×	×	○	○

複数手段で、いつでも・どこでも災害情報入手可能！



1

はじめに・NECネッツエスアイについて

2

災害対策・事業継続における基本的な考え方

3

能登半島地震による教訓

4

情報伝達コミュニケーション手段のご紹介

5

みんなに配慮したコミュニケーション

高知県日高村のご紹介

日高村は、高知市より約 16km 西方に位置し、総面積 44.85km² 農業を中心として発展してきた。糖度が8以上のブランドトマトの栽培林野面積は 28.88km²(全面積の 64.4%)で、大部分の面積を占めている



<人口分布>

2023年 1月時点	人口	うち 65歳以上	高齢化率 (全国:28.6%)
日高村	4,858	2,103	43.3%
伊方町	8,395	4,080	48.6%

村内で日高村産**シュガートマト**を使ったオムライスを提供する飲食店を総称して「**日高村オムライス街道**」としてPRして村おこし

高知県日高村の抱えていた課題

✓ 過去から水害に多く悩まされている

2014年(平成26年)8月-平成26年台風第12号の集中豪雨により日下川が氾濫して大規模な浸水被害

✓ 高齢化率が非常に高い

避難行動要支援者の増加が今後とも予測される

✓ 情報伝達手段の老朽化

住民に情報やお知らせが伝わらなくなる

高知県日高村の課題解決にむけた取り組み

✓ 住民の状況に合わせた情報配信

こども・若い方・ご高齢の方・お身体が不自由な方
屋内外にいるとき・職場にいるとき・村外にいるとき

✓ コミュニケーション手段の高度化

画面付き専用端末、テレビ電話、スマホ配信、安否確認

「誰一人取り残さないむらづくり」をめざす

事例紹介：高知県日高村様

デジタル田園都市国家構想活用したむらづくり

2023年4月3日に令和4年度補正デジタル田園都市国家構想Type1の採択が決定

“誰一人取り残さないむらづくり”の実現に向けて、

今年度から**映像対応情報専用端末・スマホアプリを導入**

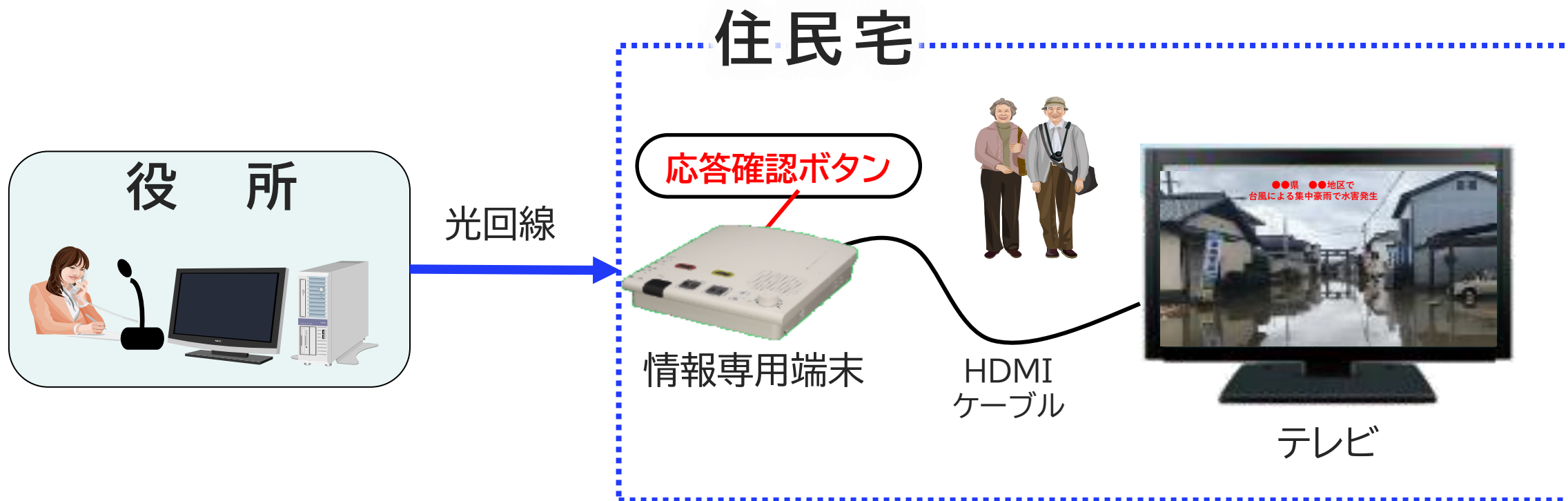
国庫補助金：デジタル田園都市国家構想を活用して、
「いつでも、どこでも、誰でも情報が入手できる環境」を整備

将来的にこの情報基盤を活用し、さらなる“むらづくり”へ展開予定

～**買い物支援・見守りサービス・デマンドバス・監視カメラ河川水位情報配信** 等～

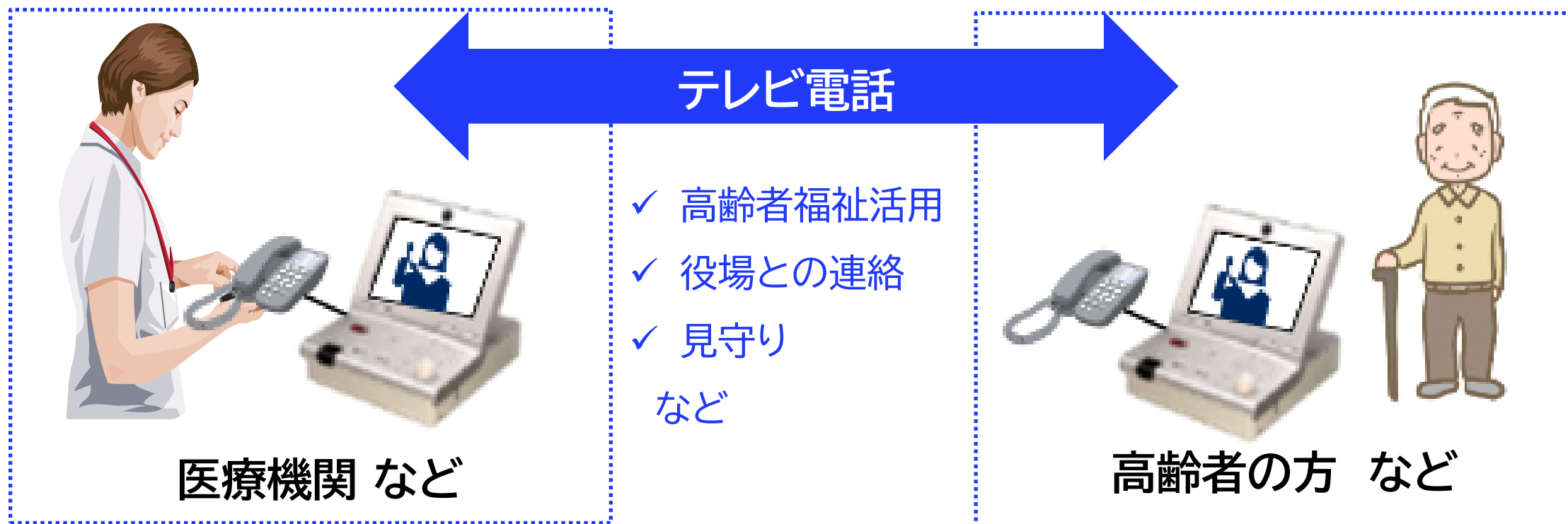
事例内容① 従来の音声告知放送に加え映像情報を配信

高齢者の方などにも使い慣れたテレビ・情報専用端末に
「音声告知放送＋映像情報配信」を開始



事例内容② テレビ電話によるコミュニケーション強化

テレビ電話機能で「対面」での情報交換・コミュニケーション



事例内容③ 情報専用端末・テレビで地域情報収集

住民の方が映像を通じて、地域情報・状況を把握



- 今後の災害発生の事前予測が可能
- 避難勧告、避難指示に迅速に対応可能

事例内容④ スマホアプリ連携によりスマホで情報収集

スマホで告知放送の内容を音声+テキストで確認



ボタンを押す



再生ボタンで
音声放送が聞こえる



- アプリ情報内容
- ✓ 告知放送(音声)
 - ✓ 監視カメラ画像
 - ✓ 自治体ホームページなど

地域の映像・情報を手のひらに

日高村では、今年度も住民サービス向上予定

✓ むらの画像をスマホ、専用端末(高齢者など)へお届け
河川監視、海の水位、山の積雪状況など

✓ 住民みんなの生活がさらに便利に
⇒ 河川監視カメラの映像などをスマホに配信
⇒ 住民が様々な情報をどこにいてもスマホアプリで入手可能

スマホ100%も目指し
村の情報が手のひらにのる時代に

**世の中の流れとして、
今後は、スマホ利用が主流に！**



地域情報が手のひらに乗る時代。。。

※最後に、スマホアプリデモをご覧ください



明日のコミュニケーションをデザインする

NEC ネットズエスアイは、お客様の目線に立った
これからのコミュニケーションをデザインする会社
としてお客様の価値向上に取り組んでまいります。

nesic

検索

\Orchestrating a brighter world

NEC

NEC ネットズエスアイ